

## 報告 水部会

# 水の世紀 世界の水を考える

2003年3月16日～23日の8日間にわたり京都・大阪・滋賀の3会場で開催された「第3回世界水フォーラム」に、2名の代表者を送り出しました。1人はMELONで作成した水辺マップ作りを通して生まれた「阿武隈川流域ネット」実行委員の児玉芳江さん。もう1人は事務局から小林幸司さんです。

4月26日(土)には、フォレスト仙台5F501会議室で「世界の水について考えてみよう～第3回世界水フォーラムで見たこと聞いたこと」と題して報告会を行いました。写真画像をスクリーンに映し、それぞれの視点で見えてきたことや感じたことを話していただきました。参加者からは「関心を持ってはいても、あまりに楽に水を手に入れることができる私たちにとって、改めて大きく受け止めなければと思いました」「臨場感があってとてもよかったです。なるほどと、一つ一つ納得しながら拝聴していました」という声をいただき、水問題を改めて意識してもらおう良い機会になりました。

\*世界水フォーラム  
1992年リオデジャネイロで開催された「地球サミット」で水資源の確保が主張され、96年に水に関する国際組織「世界水会議(WWC)」や「世界水パートナーシップ(GWP)」が誕生。世界水フォーラムは、21世紀は世界全体で水問題を考えて解決していこうとWWCの呼びかけで始まりました。

### 第3回世界水フォーラムへ参加して…



#### 児玉芳江さんの感想

「現在の世界の人口増加に伴う水不足は、もはや目の前にきているのだと実感できました。特に日本の食糧輸入から算出した、『仮想水』についてはきちんと認識する必要があります。水問題を考えるとき、まず、今私たちにできること、自分の生活を変えてみる、やれることからやってみる。水問題に限らず、環境問題全般にわたって必要なことだと改めて認識することができました。」



#### 小林幸司さんの感想

「日本人の危機感の低さを感じました。また、環境と貧困の問題を改めて考えさせられました。我々はまず無関心をやめることが大事だと思います。何ができるのか、何をすべきなのかは私にはまだわからないけれど、水問題に関して一人一人が目を向けることからすべてが始まると思います。少しずつでも無理なくできること、気づいたことから始めていきたいと思っています。」

\*仮想水：生産に水が必要な農産物などの輸出入に伴い、水も輸出入していることになるという考えから、これを『仮想水』と呼びます。



## 報告

### ごみ減量プロジェクト

## MELONの樹 2本を植樹

4月5日(土)午前9時から台原森林公園の地下鉄旭ヶ丘駅前広場に、赤と白のハナミズキ2本を記念植樹しました。あいにくの雨でしたが、24名の参加がありました。

小雨の中、宮城県森林組合連合会の伊藤幸男次長の指導の下、参加してくださった皆さんと、かわるがわるシャベルで2つ穴を掘り、植える方向を何度も確認しながら丁寧に土と水をかけました。小さなMELONの看板も取り付け、最後に元気に育つようお願いをこめて「春の歌」を合唱しました。

\*ハナミズキを植えるまで\*

「ごみ減量プロジェクト」では、年に一度仙台市勾当台公園市民広場において、おさがり市(フリーマーケット)を開催しています。昨年は141店に出店いただきました。

当日会場に持ち込まれたり、出店者からいただいた古布(こふ)でできた「古布の山」の売り上げと、ガラスのコップの絵掘りの売り上げは、44,881円にのぼりました。収益金を目に見える形で残したいとの思いから、仙台市と宮城県森林組合連合会にご協力をいただき、今回の記念植樹になりました。

